

今年の最後の句会は、雨降り前の少し気温が上がった穏やかな天気の中での開催になりました。出席者十四名、投句者六名。題が「消しゴム」でしたので着想の幅が広がり難いのではないかと思っていました。その通りになりました。「消す」だけでは「消しゴム」の題意から少しはずれると思います。文芸川柳と言うとつい堅い句になりがちなので、今後はまゆみさんが提唱されたユウモア句も紹介して、頭をやわらかくしながら笑いの多い会にしたいものです。

緊急のお詫びとお知らせ。

一月の句会を平成三十年一月二十一日(日)に変更します。すみません。

一月の句会： 平成三十年一月二十一日(日) 午前十時～十一時四十分 集会所

題： 「お年玉」

十二月の句会から 題 「消しゴム」

* 消しクズの多さで分かる自信なさ

眞二

(川柳二句つくるにも、言ってみて書いてみて読むまだ駄目だ と消しゴム屑ばかり溜まります。パソコンに向かえば簡単に消えますが味気なし。手間ひま掛けた手書きには人の温みがあっていいですね。その人間味に最多の共感が寄せられました。)

* 消しゴムで消せるものなら北の国

桐子

(北も北なら米も米ですね。それに日本もつられてる。胸襟を開いて話し合えばよいのに。)

* あれこれと難問消して年の暮れ

史郎

(年の暮れには総ざらいして、しゃんしゃんと手を打ちたいところですが、そううまくいかないのが人の世。前向きに新年を迎えます。)

* 消しゴムに本音を消され書く日記

伸子

(完成度の高い上手い句を頂きました。日記と言えども書くのに憚れることは多々あります。作者のおっしゃる通り、消しゴムで本音を消して書く日記 とすると説明句になります。そこまで考えられた作句に脱帽。)

- * 消しゴムで落としてほしい顔のしわ
ツタエ
(美容整形が流行っているようですが、そんなに上手くはいきまますまい。人生の勲章でしよう笑い皺。)
- * 戻りたい染み皺消して十代に
清児
(むかし乙女の切なる願い。)
- * 人生に消しゴムあればやり直す
洋子
(過去は過去なり。今輝いていますよ洋子さん。)
- * 付度の消しゴムくずにある事実
六郎
(森 加計疑惑にある真実も消しゴムくずにまぎれて捨て去られるのでしよう。権力は狡くて怖い。)
- * 消しゴムで年消し若さ取り戻し
英代
(気は持ちようで若さを取り戻せると思いますが、体は消耗品だどつくづく思い知らされています。)
- * 失敗を消せる魔法のゴムないか
新之助
(取り返しの効かない失敗をしてトラウマを抱え込むことはありませんね。魔法の消しゴムが欲しい。)
- * 角を消しまーるく成年。“はっけよい”
遊位子
(面白い着想の句を頂きました。相撲界も世の中も八卦良い成年にしたいものです。)
- * あの時に時空を消して戻りたい
雅子
(漠として分かるようで分からない句になりました。あの時とはどんな時だったのでしょうか。)
- * 下車すると消した思いの彼は今
てるみ
(この句もドラマがありそうですが、作者の気持ちに本人だけにしか分からない句になりました。)
- * 付度も消しゴム使い闇に消す
じゅん
(森友学園、加計学園政治の上で謎深く・・・とは作者の思いですが、本当に後味の悪い幕引きです。)
- * 板書中消しゴム投げ合い大目玉
蓼
(先生が背を向けているとき、消しゴムをちぎって友達と投げ合ったことがありました。なつかしい。)
- * 人生の消しゴムなきか神に聞く
ポン太
(一生は神が出題するテスト 上岡昇平 と詠んだ句があります。閻魔様の裁定前に消せるものなら消したいものです。地獄の沙汰も金次第とは言いますが。)
- * テスト日に消しゴム忘れ大あわて
佐紀
(手を挙げて、「先生 消しゴム忘れました。貸してください。」と声を上げたつわものもいました。)
- * 消しゴムで凶悪の芽を消したいな
和博
(博愛という消しゴムでしょうか。)
- * 世の中を消しゴム使いやり直す
まゆみ
(スケールの大きな消しゴムが出てきました。せめて正直者がバカを見ない公正な世にしたいです。)
- * 消しゴムは川柳作りよき相棒
遊位子
(推敲の心掛けいいですね。よき相棒は下六になりました。)
- * 消しゴムも飾って楽しコレクション
まゆみ
(消しゴムもいろいろ。楽しいコレクション。)
- * 消しゴムで消した柱は晴れやかに
英代
(下五に違和感を感じます。きれいになったと言うことであれば、消しゴムが若返らせた床柱 とでも。)
- * 顔のしみ消しゴムでけす赤子肌
洋子
(手入れが行き届いています。)
- * 消しゴムで皆んな消したい世のよこれ
ツタエ
(どうにもなりません。)

* しまったな今の言葉消さないと

てるみ

(口は災いのもと。しかし政治家は 失言も真意じゃないと言い逃れ。)

* 消しゴムをぶつけたあいつどうしてる

史郎

(なつかしく気になる悪童仲間)

* 天災は消すに消せない記憶です

佐紀

(トラウマとなって残ります。)

* ああ嫌だ腰の痛みは消しゴムで

ポン太

(病んで知る腰痛持ちの多い事)

* 消しゴムで消せれば嬉しい若気の至り

和博

(この句は中八、下七の字余りになりました。すこし整理して、若気の到り消せる消しゴム欲しいもの。)

* 消しゴムとひねってみても出ぬ川柳

蓼

(難産の様子がよく分かります。消しゴムに当たり散らして五七五)

* 消しゴムで消せるものなら恋の傷

眞二

(甘美な痛手。)

* 消しとくれ若気の至りあの時を

清児

(もう今となれば時効でしょう。)

* 無心にほろ消しゴムハンコ楽しそう

桐子

(今は彫り専用の消しゴムがあるそうです。昔は小刀で彫って消しゴムを台無しにしたものです。)

* よく消える消しゴム欲しい胸の奥

伸子

(一献の酒に溶け出すわだかまり と言うこともあります。)

* 年かさねやつと消えゆく苦労働

みつ子

(老いを前向きにとらえた見事な句だと思います。止めの句にいただきます。)

参考までに今年度の熊日大会の秀句を紹介します。

「ずばり」選者は二人 山本あかね・緒方正堂

人 逢った日に妻はお前と予感した

入口健二

ずばり何処十八才が選ぶ先

森 鈴恵

地 復元にずばりとはまる城の石

山本あかね (大会代表句)

核心を突いて絵の餅カビてくる

間瀬田紋章

天 核心を突いて絵の餅カビてくる

間瀬田紋章

夢よりもずばり明日を生きるパン

村上哲子

「プラス」選者は二人 入口健二・松村華菜

小川清隆

人 筋金一本足すと男は蘇る

間瀬田紋章

地 追伸の二行確かな母の愛

友成真理子

母介護嫁が笑顔で承知する

岡野千鶴子

天 赤ちゃんの拳無限にあるプラス

北村あじさい

筋金一本足すと男は蘇る

小川清隆

筋金一本足すと男は蘇る

小川清隆

筋金一本足すと男は蘇る

小川清隆

以上